

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童デイサービス クレセント		
○保護者評価実施期間	令和7年 1月 1日		令和7年 3月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20名	(回答者数) 11名
○従業者評価実施期間	令和7年 1月 1日		令和7年 3月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	より楽しんで来所できるように、発達段階に合わせたイベントを計画している。	「こどもイベント会議」を通して、定期的に意見を出し合う機会を設け、興味関心があることについて確認している。	施設でしか体験、経験できないことをできるように外部からも積極的に意見を取り入れるようにしていく。
2	お子様が自然と手助けをしてくれる環境ができています。	自発的な行動を促しながら、積極的に感謝を伝えるように関わることを職員全体で意識付けしている。	これからも継続して事業所全体で優しく関わるができるように環境作りを行っていく。
3	利用者の年齢に合わせた支援計画を計画している。	同じ活動でも年齢によって内容を変えて支援を行っている。	年齢だけでなく発達状況や成長段階を踏まえてより良い支援計画を作成していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	2階に支援室があるためバリアフリー化が不十分である。	建物の構造上、バリアフリー化が難しい。	階段の滑り止めや児童の背丈に合わせた手すりやステップの設置。
2	児童発達支援の利用者の方が多いため、放課後等デイサービス利用者の子ども達に興味のあるイベントや外出が難しいことがある。	イベント自体の活動時間が決まっている為、年齢に応じた時間設定が難しい。	外出先には年齢に応じた活動が可能な場所を改めて考え、利用される方のニーズに答えられるよう努めていく。
3	学習スペースが支援スペースと同空間の為、集中しづらい環境となっている。	パーティションを用い、視覚的には分けているが、どうしても声や音が聞こえてしまう。	今後必要に応じて、イヤーマフの活用も検討していく。